

令和7年度 第4回平田地域協議会会議録（要約）

日 時 令和8年1月15日（木）午後1時30分～午後2時55分

場 所 平田総合支所 302号室

出席委員 12名

1号委員 長堀 恵理 佐藤 真美 小野寺孝延 石黒 初枝
阿部 太郎 佐藤 善仁 丸山 清 山口 貴明
2号委員 石黒 由香 新橋 康 久松 由華 阿部 和葉

欠席委員 3名

1号委員 田中井広志 今井さち子
2号委員 佐藤 正一

酒田市出席者 平田総合支所長 阿部 司
平田総合支所長補佐兼地域振興係長 池田 徹
平田総合支所地域振興主査 阿部 光正

傍聴者 なし

議事日程

1. 開 会
2. あいさつ
3. 会議録署名委員の選任
4. 協議
 - (1) 市長報告会の報告内容について
 - ①令和7年度の活動について
 - ②地域振興について
 - (2) その他
5. その他
6. 閉 会

【協議会の概要】

令和7年度の最終回として、これまで話し合われてきた提言内容の最終確認を行った。市長報告会にて報告する内容については、今後修正等の必要があれば、会長、副会長に一任することとした。

【会議録（要約）】

1. 開会

- ▶事務局より開会と欠席委員3名の報告

2. あいさつ

- ▶石黒由香会長あいさつ
- ▶阿部支所長あいさつ

3. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、佐藤真美委員を指名した。

4. 協議

（1）市長報告会の報告内容について

①令和7年度の活動について

- ▶資料に基づき、池田支所長補佐が説明

②地域振興について

- ▶資料に基づき、池田支所長補佐が説明

【4 市長報告会の報告内容に対する意見・質問】

○小野寺孝延委員

土地の豊かさと自然の魅力を活用する箇所の小さな休憩スペース設置についてであるが、屋根は付けるのか、付けないのかどのような形態を考えているのか。

○池田支所長補佐

屋根はあった方がよいと考えているが、私がイメージしているのは、若者が美しい景色を目的に休憩スペースを訪れて、その風景をSNSにあげることで、その場所や平田が話題になってくれればと考えたものである。

○小野寺孝延委員

南麓、アイアイを上がっていくと以前、私が休憩所として使っていた場所がある。近年はチェーンが張られ、上に行けないようになっている。その場所からの景色が非常に良かった。西は海が見え、東は仁助新田の一本道が見え、とてもリラックスできた。

○丸山清副会長

以前スキークラブからピクニックランドにベンチを置きたいという話があったが、土地の所有権の関係で勝手に置くことはできなかった。しかし今の提案が行政から出たという事は、前向きに考えられるのかなと思う。

○阿部和葉委員

若い人が集まってSNSに写真等をあげる時は、その場所に行ったらSNS映えや話題になる写真がとれるということだと思う。富山県のレインボーラインの見晴らしの良い場所では、場所がレインボーラインだったので、モデルが虹色模様の日傘をさして撮影していたのが印象的であった。

そこで何か仕掛けが必要だとすると、例えば、平田は目玉焼きのデザインになっているアイちゃんがシンボルになっているので、アイちゃんがデザインされている傘と一緒に写真をとれば、平田で撮ったという事がヒントになるので、話題になるのではないかと思う。

○新楯康委員

里山の会で眺海の森の眺望のよい場所に丸太のベンチを設置している。最近若い人たちも訪れてきて、インスタ映えする景色を撮っているようである。自分たちでいろいろ構図を考えて撮っていた。インスタにあげていただくようお願いした。

それから、私はキャンプに来る人が非常に増えていると感じる。ただ、昼間はアイアイ平田がオープンしているので特に問題はないが、夜になるとアイアイ平田が閉まり、トイレを利用できなくなる。それが課題だと思っている。

○山口貴明委員

庄内ひらた目ん玉夏まつりの参加人数が具体的に4,400人と記載されているが、どのように調べたのか教えていただきたい。

また、開催時期は主催する方々にとっては、お盆の時期に行くことは大変だと思うが、お盆に帰省する時期に花火を上げるということでもよいのではないか。開催時期については、8月の最終日曜日と限定したものではなく、主催者の方々に任せることでよいのではないかと思う。

○石黒由香会長

開催時期については、私の周りでもお盆の方が良かったという声が多かった。

皆さんの周りでは、庄内ひらた目ん玉夏まつりの実施時期について今年度の時期とお盆の時期のどちらに実施した方がいいという意見が多かったか教えていただきたい。

○長堀恵理委員

実施時期の話は周りでは聞いていない。

○佐藤真美委員

私の周りでも時期についての話は聞いていない。

○小野寺孝延委員

私も実施時期の件については、聞いたことがない。

○石黒初枝委員

お盆に帰ってきても、これまでのように花火や盆踊りなどの楽しみがないという声は聞いた。

○阿部太郎委員

庄内ひらた目ん玉夏まつりの開催日がJ Aまつりと同日という事で、農協関係の方々の意見を聞くと、お盆の時期の方が良かったという声が多かったと思う。

○丸山清副会長

私の周りではどちらの時期が良いという事は、聞こえてこなかった。

○佐藤善仁委員

今年初めてまつりの時期を変更したので、苦情があると思っていたがあまりなかった。時期より内容が大事だと思うが、開催時期は変わっても来る人は来ると思う。主催する側がやりやすい方でよいのではないかと思う。

○新楯康委員

私の周りでは、どちらが良かったという声は聞こえてきていない。

○久松由華委員

以前は子供が大学で家を離れていて、お盆に夏まつりがあると、まつりにあわせて同級会をして、花火を見るという事はあったので、その当時はお盆に夏まつりを行うのが良いと感じていた。しかし、お母さん達はお盆にお客さんや帰省客がいるとお世話をすることで精一杯となり、夏まつりに行く暇はないという事であった。

今年度は時期がずれたことで盆踊りにも参加でき、花火もゆっくり見ることができてよかったという意見もあった。その事業のターゲットを誰にするのかで変わってくるのだと思う。

○阿部和葉委員

私は周りでどちらが良いということはない。参加人数のカウントの方法にもよると思うが、実際に参加人数が増えているという事は、新たに参加できるようになった人もいるのだと思う。時期がずれて良かったと感じている人達は、苦情ではないため、周りにあまり言わないと思う。

新たに参加できるようになった人達をターゲットにするのであれば、もう少しお盆を外した時期に実施することを続けてもよいのではないかと思った。

○阿部支所長

ご質問がありました庄内ひらた目ん玉夏まつりの人数は、当日出店された、ふれあい商工会さん等の出店の客数やJ Aまつりの福引抽選券の配布数などを総合的に集計して、実行委員会最終的に決定したものである。平田観光物産事業実行委員会の前野実行委員長の話では、これまでにない人出であり、女性が多かったと感じたとのことであった。4,400人という数字は、妥当な人数だと納得したところである。

それから、今日のご意見であるが、この夏まつりの実行委員会である平田地域観光物産事業実行委員会では来年度実施するか、しないかも含めて検討していくと思うが、分析をしながら検討をしていくと思う。

実行委員会の実情をお話しすると、8月14日はお盆のため会社も休みで、休日に従

業員から準備協力のために夏まつりへ出てもらうことが難しいという会社が多く、実行委員会の体制がなかなか取れない状況であったため、夏まつりの開催日程を変えるしか方法がなく、変更したものである。ただ、この開催日程がずっと固定で続くというわけではなく、今ご意見のなかでもあった8月14日という案も全くないというわけではないということを知っている。これは今後、実行委員会で検討していくものだと思う。

○山口貴明委員

もともと花火自体を、お盆に上げるということに意味があった。ただ花火を打ち上げれば良いというものではなく、神様や仏様に関係があり、お盆に上げているということがあったようである。

○丸山清副会長

「雪ん子目ん玉まつり」、「ぜったいもっしえじかん」については私も関係者なので、是非皆さんの知恵を拝借してブラッシュアップしていきたいと思っている。

1月25日に予定している雪ん子目ん玉まつりの会場の積雪が現在15センチしかなく、最低でも40センチは必要である。ここ10日間の積雪に期待している。

「ぜったいもっしえじかん」は、今年度から田沢、郡鏡・山谷、東陽の中山間地域の三つのコミ振の共同事業にステップアップさせていただいている。来年度は、市長を招待したいと考えている。

○山口貴明委員

資料のコミュニティの活性化のコミュニティという表現についてだが、コミュニティ振興会というものがあるので、皆さんがこの資料のコミュニティを見て抱くイメージは、自治会やコミュニティ振興会を思い浮かべてしまうと思う。よく読み込めば、趣味やお友達グループ的なものだとわかるが、今はコミュニティに代わる良い言葉が浮かばないので、報告会では、会長と副会長にしっかり話をさせていただきたいと思う。

今回報告書の案をうまくまとめていただいたと思う。しかし地域課題というか、地域からの要望というものが、あまりなかったのかなと感じる。

今年度は過疎計画も変更して、委員の皆さんに確認いただきたいという話もありましたが、今までとの相違点を考えると鳥獣被害がかなり深刻だと感じている。熊も深刻だが、山間地域の耕作者からイノシシの被害を聞くとかなり大変だったとのことである。もう少し深刻な話を盛り込んだ方がいいと思う。

私は過疎計画にも鳥獣被害対策をもっと強く示してほしいと要望を提出した。このままだとイノシシの数が増加して、手に負えなくなるのではないかと心配している。地域課題として報告会へ出さないといけないのではないかと感じる。

農業経営者の方々もいらっしゃるので、ご意見をお聞かせいただきたい。

○佐藤真美委員

山間地に田があるが、被害がかなりひどかった。収量も被害のあったところは、か

なり減った。父親が山際にポールを立ててネットを張ったりしたが、本当に被害がひどかった。

○山口貴明委員

鳥獣被害対策の担当課はどこになるのか。

○阿部支所長

農作物被害は農政課、有害鳥獣対策は環境衛生課である。電気柵関係は農政課、誘因不要果樹伐採は環境衛生課である。市街地に熊が出ると危機管理課が担当となる役割もこれに加わってくる。

○山口貴明委員

一本化できないものか。全市で考えていただきたい。

○阿部太郎委員

今年、酒田で捕まえた熊を離れた山へ放したら、秋田県で捕まったという情報があるので、熊は秋田県側からも酒田に来ていると思う。県を跨いだ対策ということも必要だと感じる。

今は山場で熊の対策をしているので、市街地へあまり出ていないが、山場で対策をしなくなったら市街地へどんどん出没することになると思う。今年市街地へ出た熊は、来年も市街地へ行くと言われている。何か鳥獣被害対策について提案していただきたいと思う。

○石黒由香会長

それでは皆さんの意見として鳥獣被害対策について提案するという事でまとめたいと思う。

その他に皆さんから何かありますか。無いようでしたら、今年度は2年1期の1年目で、このような形で提案事項をまとめることができました。十何年前は、いろいろな要望をしていたが、平田地域は無いものに目を向けるより有るものに目を向けるということで、ニュアンス的に柔らかく穏やかなまとめ方になってきたと思う。来年度は、まとめの年としてこの形をブラッシュアップして市長に報告できるようにまとめていけたらと思う。

○阿部支所長

当初は地域振興にかかわるということでワークショップから始めたわけだが、地域事情を一番知っている皆さんから地域の一番の課題ということを出していただけたと思う。

会長から話があったとおり、今年度の総まとめという事で市長へ提出させていただければと考えている。本日出た意見も踏まえて会長と副会長へご一任いただけるということであれば、会長、副会長と相談して事務局でまとめさせていただきたいと思う。

○石黒由香会長

それでは、こちらの方でまとめさせていただきたいと思う。

5. その他

事務連絡

- ▶車賃の支払いと下半期の報酬の支払いについて事務連絡

6. 閉会

- ▶丸山副会長閉会